

2019/9/17

柏の景気情報(2019年8月分)

柏 商 工 会 議 所

(本件担当) 柏商工会議所 中小企業相談所 振興課
〒277-0011 千葉県柏市東上町7-18
TEL : 04-7162-3305
FAX : 04-7162-3323
URL : <http://www.kashiwa-cci.or.jp>
E-mail : info@kashiwa-cci.or.jp

柏の景気情報(2019年8月分)

○ 調査期間 : 2019年8月27日 ~ 2019年9月6日

○ 調査対象 : 柏市内156事業所及び組合にヒアリング

＜産業別回収状況＞

調査産業	調査対象数	回答数	回収率
全産業	156	70	44.9%
建設	44	19	43.2%
製造	33	14	42.4%
卸・小売	44	23	52.3%
サービス	35	14	40.0%

○ 調査方法と調査表 : 下記「質問A」をDI値集計し、「質問B」で「業界内のトピック」の記述回答。

質問A

質問事項	回答欄					
	前年同月と比較した 今月の水準			今月の水準と比較した向 こ3ヶ月の先行き見通し		
a.売上高 (出荷高)	1 増加	2 不変	3 減少	1 増加	2 不変	3 減少
b.採算 (経常利益ベース)	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
c.仕入単価	1 下落	2 不変	3 上昇	1 下落	2 不変	3 上昇
d.従業員	1 不足	2 適正	3 過剰	1 不足	2 適正	3 過剰
e.業況	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
f.資金繰り	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化

質問B 業界内のトピック(記述式)

$$DI値 = 1増加他の回答割合 - 3減少他の回答割合$$

※ DI値(景況判断指数)について

DI値は、売上、採算、業況などの項目についての判断状況を表す。0(ゼロ)を基準として、プラスの値で景気の上向きを表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりという意味する。

※ DI値と景気の概況

DI ≥ 50	50 > DI ≥ 25	25 > DI ≥ 0	0 > DI ≥ ▲25	▲25 > DI
特に好調	好調	まあまあ	不振	極めて不振

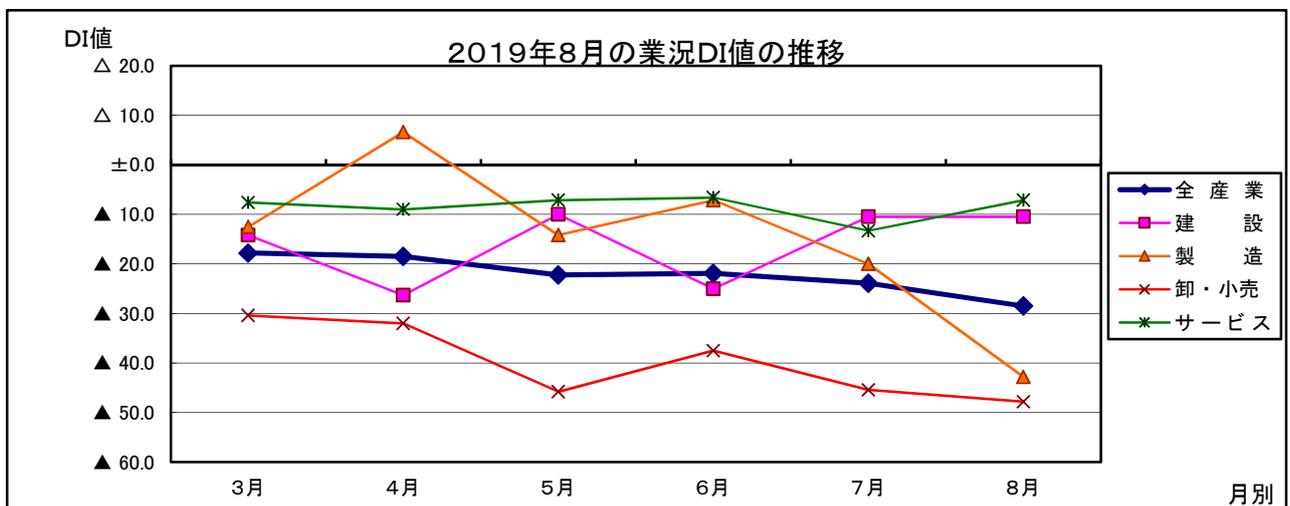
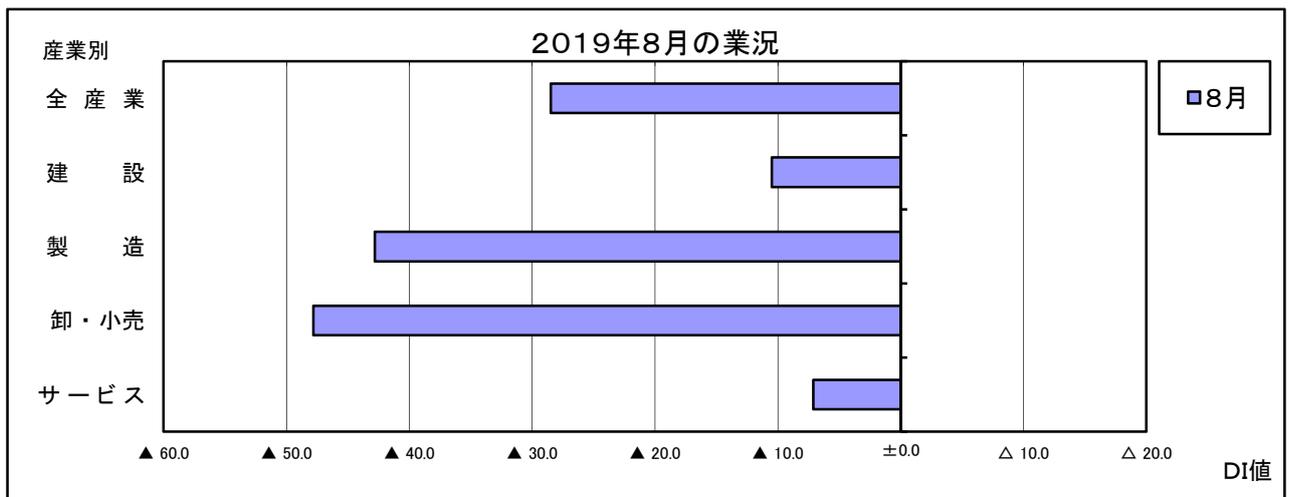
【2019年8月の業況についての状況】

○ 8月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲28.5(前月水準▲23.9)となり、マイナス幅が4.6ポイント拡大した。
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、サービス業▲7.1(同▲13.3)である。変らない業種は、建設業▲10.5(同▲10.5)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、製造業▲42.8(同▲20.0)、卸小売業▲47.8(同▲45.4)である。

○ 向こう3ヶ月(9月から11月)の先行き見通しについては、全産業では、▲22.8(前月水準▲19.7)となり、マイナス幅が3.1ポイント拡大する見通しである。
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、サービス業▲14.2(同▲26.6)である。変らない見通しの業種は、建設業▲5.2(同▲5.2)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、製造業▲21.4(同±0.0)、卸小売業▲43.4(同▲40.9)である。

2019年8月業況DI値(前年同月比)の推移

	2019年						先行き見通し
	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月~11月(8月~10月)
全産業	▲17.8	▲18.5	▲22.2	▲21.9	▲23.9	▲28.5	▲22.8(▲19.7)
建設	▲14.2	▲26.3	▲10.0	▲25.0	▲10.5	▲10.5	▲5.2(▲5.2)
製造	▲12.5	△6.6	▲14.2	▲7.1	▲20.0	▲42.8	▲21.4(±0.0)
卸・小売	▲30.4	▲32.0	▲45.8	▲37.5	▲45.4	▲47.8	▲43.4(▲40.9)
サービス	▲7.6	▲9.0	▲7.1	▲6.6	▲13.3	▲7.1	▲14.2(▲26.6)



【2019年8月の売上についての状況】

○ 8月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲21.4(前月水準▲15.4)となり、マイナス幅が6.0ポイント拡大した。

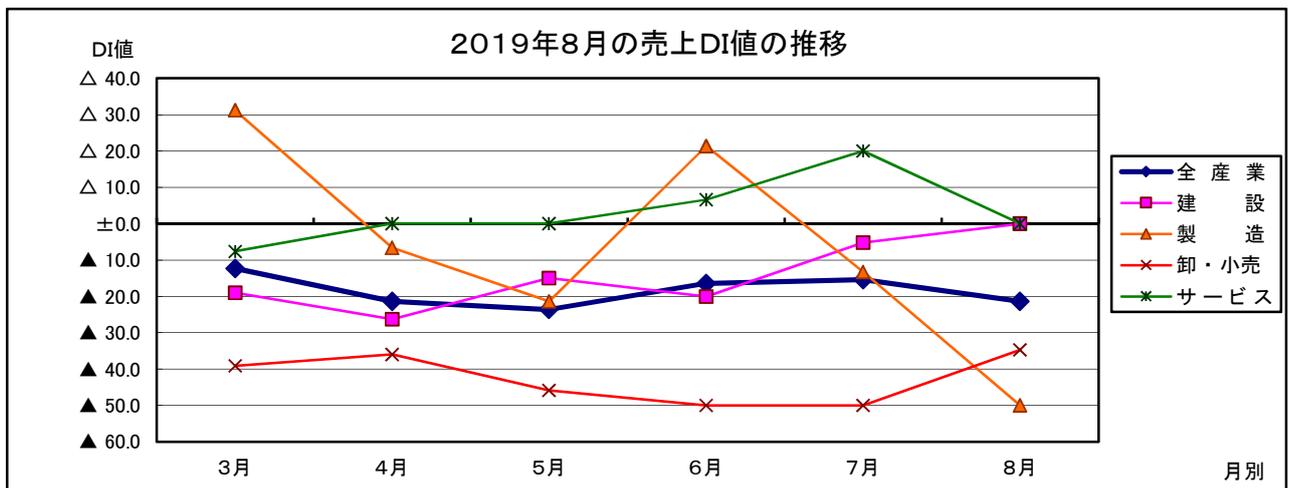
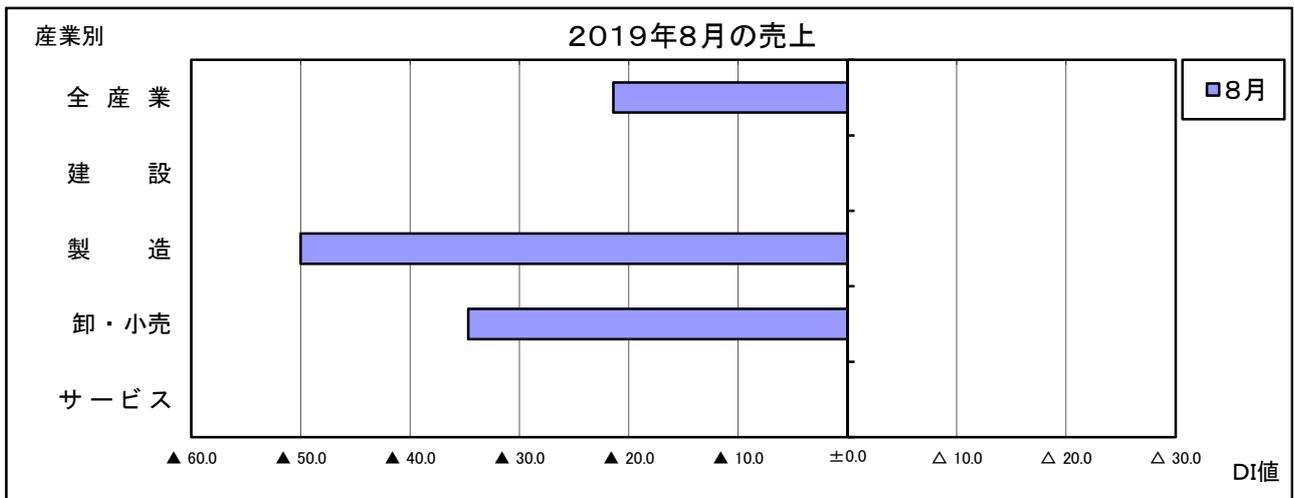
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲34.7(同▲50.0)、建設業±0.0(同▲5.2)である。プラス幅が縮小した業種は、サービス業±0.0(同△20.0)である。マイナス幅が拡大した業種は、製造業▲50.0(同▲13.3)である。

○ 向こう3ヶ月(9月から11月)の先行き見通しについては、全産業では、▲17.1(前月水準▲7.0)となり、マイナス幅が10.1ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が縮小する見通しの業種は、建設業±0.0(同△5.2)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、製造業▲21.4(同±0.0)、卸小売業▲34.7(同▲27.2)、サービス業▲7.1(同±0.0)である。

2019年8月の売上DI値(前年同月比)の推移

	2019年						先行き見通し
	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月~11月(8月~10月)
全産業	▲12.3	▲21.4	▲23.6	▲16.4	▲15.4	▲21.4	▲17.1(▲7.0)
建設	▲19.0	▲26.3	▲15.0	▲20.0	▲5.2	±0.0	±0.0(△5.2)
製造	△31.2	▲6.6	▲21.4	△21.4	▲13.3	▲50.0	▲21.4(±0.0)
卸・小売	▲39.1	▲36.0	▲45.8	▲50.0	▲50.0	▲34.7	▲34.7(▲27.2)
サービス	▲7.6	±0.0	±0.0	△6.6	△20.0	±0.0	▲7.1(±0.0)



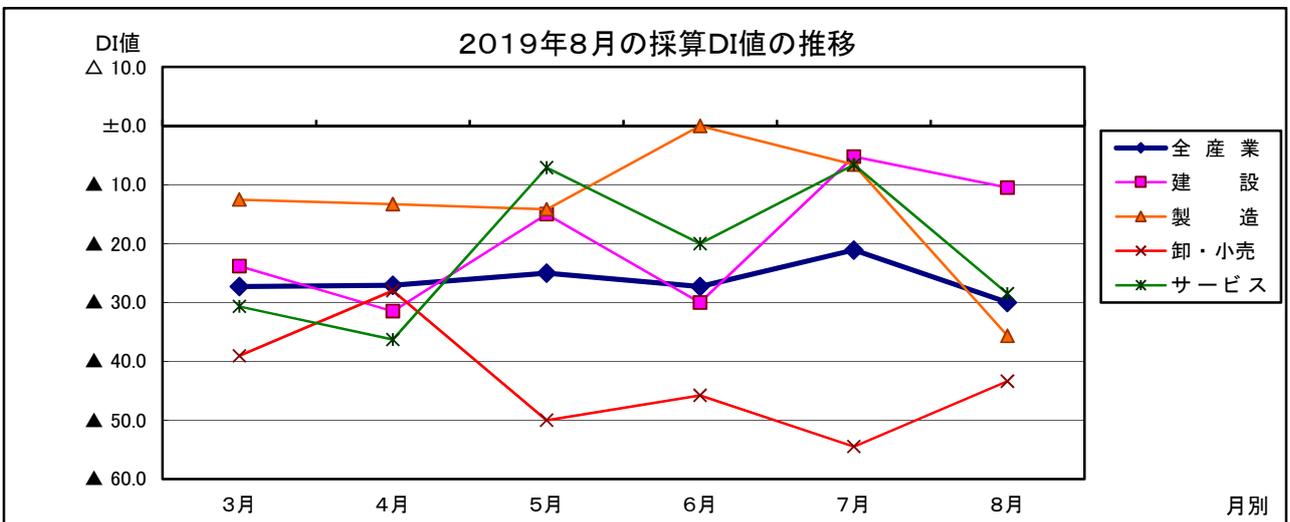
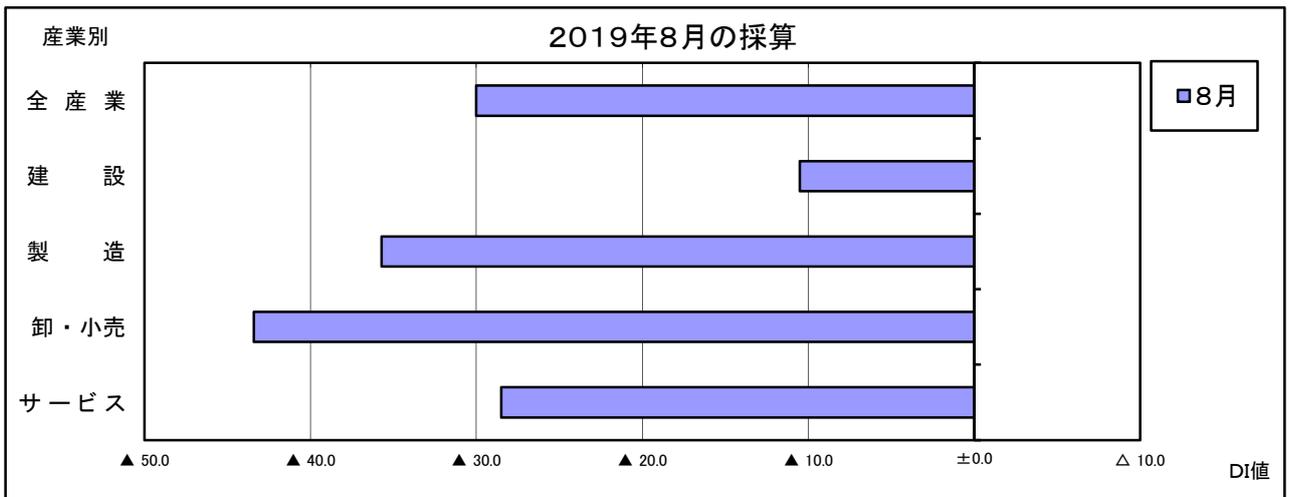
【2019年8月の採算についての状況】

○ 8月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲30.0(前月水準▲21.1)となり、マイナス幅は8.9ポイント拡大した。
 業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、卸小売業▲43.4(同▲54.5)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、製造業▲35.7(同▲6.6)、サービス業▲28.5(同▲6.6)、建設業▲10.5(同▲5.2)である。

○ 向こう3ヶ月(9月から11月)の先行き見通しについては、全産業では、▲24.2(前月水準▲11.2)であり、マイナス幅が13.0ポイント拡大する見通しである。
 業種別では、前月水準と比べて、プラスからマイナスに転じる見通しの業種は、建設業▲5.2(同△5.2)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、製造業▲28.5(同±0.0)、サービス業▲14.2(同▲6.6)、卸小売業▲43.4(同▲36.3)である。

2019年8月の採算DI値(前年同月比)の推移

	2019年 3月	4月	5月	6月	7月	8月	先行き見通し 9月~11月(8月~10月)
全産業	▲27.3	▲27.1	▲25.0	▲27.3	▲21.1	▲30.0	▲24.2(▲11.2)
建設	▲23.8	▲31.5	▲15.0	▲30.0	▲5.2	▲10.5	▲5.2(△5.2)
製造	▲12.5	▲13.3	▲14.2	±0.0	▲6.6	▲35.7	▲28.5(±0.0)
卸・小売	▲39.1	▲28.0	▲50.0	▲45.8	▲54.5	▲43.4	▲43.4(▲36.3)
サービス	▲30.7	▲36.3	▲7.1	▲20.0	▲6.6	▲28.5	▲14.2(▲6.6)



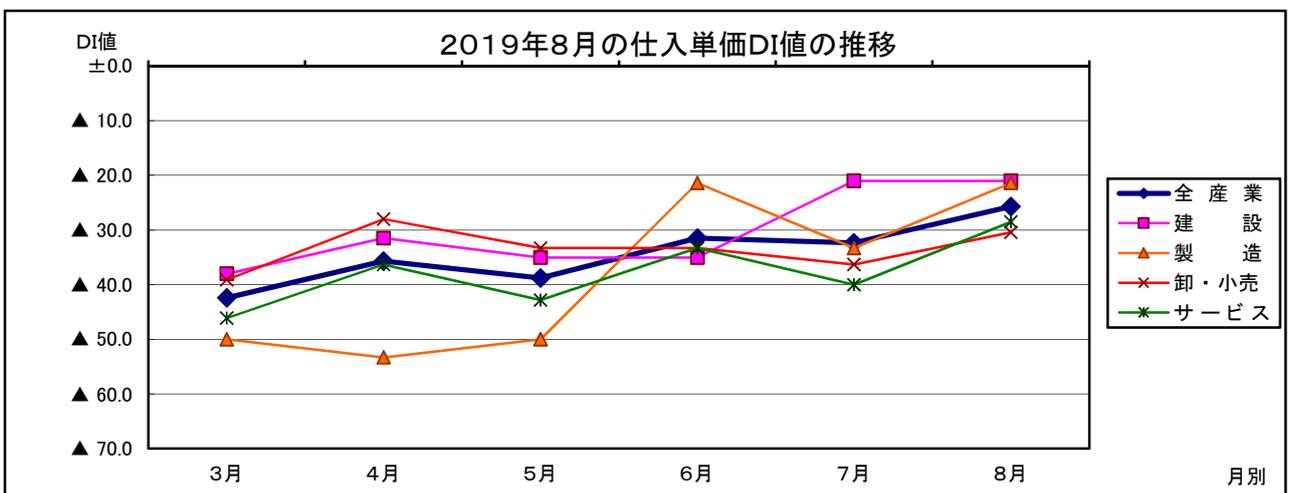
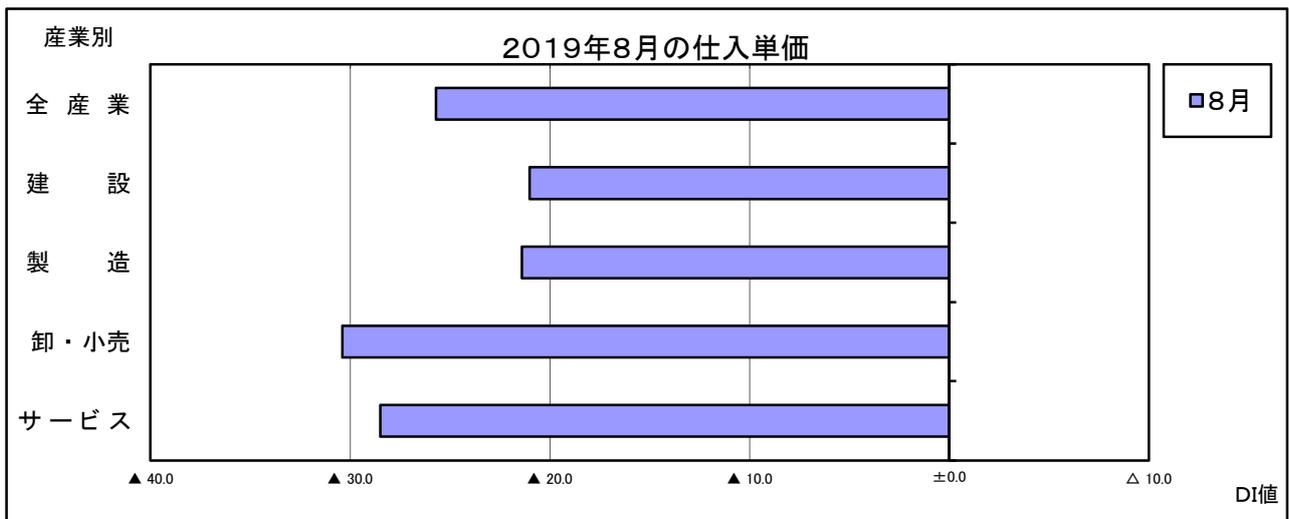
【2019年8月の仕入単価についての状況】

○ 8月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲25.7(前月水準▲32.3)となり、マイナス幅が6.6ポイント縮小した。
 業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、製造業▲21.4(同▲33.3)、サービス業▲28.5(同▲40.0)、卸小売業▲30.4(同▲36.3)である。変らない業種は、建設業▲21.0(同▲21.0)である。

○ 向こう3ヶ月(9月から11月)の先行き見通しについては、全産業では、▲20.0(前月水準▲32.3)となり、マイナス幅が12.3ポイント縮小する見通しである。
 業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、製造業▲7.1(同▲26.6)、サービス業▲14.2(同▲33.3)、卸小売業▲30.4(同▲40.9)、建設業▲21.0(同▲26.3)である。

2019年8月の仕入単価DI値(前年同月比)の推移

	2019年 3月	4月	5月	6月	7月	8月	先行き見通し 9月~11月(8月~10月)
全産業	▲42.4	▲35.7	▲38.8	▲31.5	▲32.3	▲25.7	▲20.0(▲32.3)
建設	▲38.0	▲31.5	▲35.0	▲35.0	▲21.0	▲21.0	▲21.0(▲26.3)
製造	▲50.0	▲53.3	▲50.0	▲21.4	▲33.3	▲21.4	▲7.1(▲26.6)
卸・小売	▲39.1	▲28.0	▲33.3	▲33.3	▲36.3	▲30.4	▲30.4(▲40.9)
サービス	▲46.1	▲36.3	▲42.8	▲33.3	▲40.0	▲28.5	▲14.2(▲33.3)



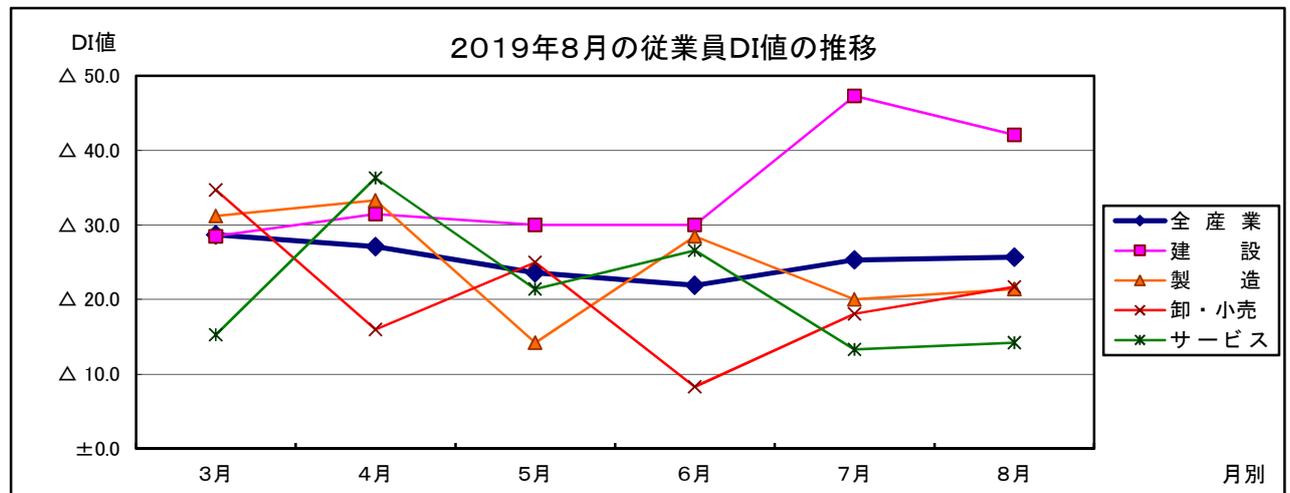
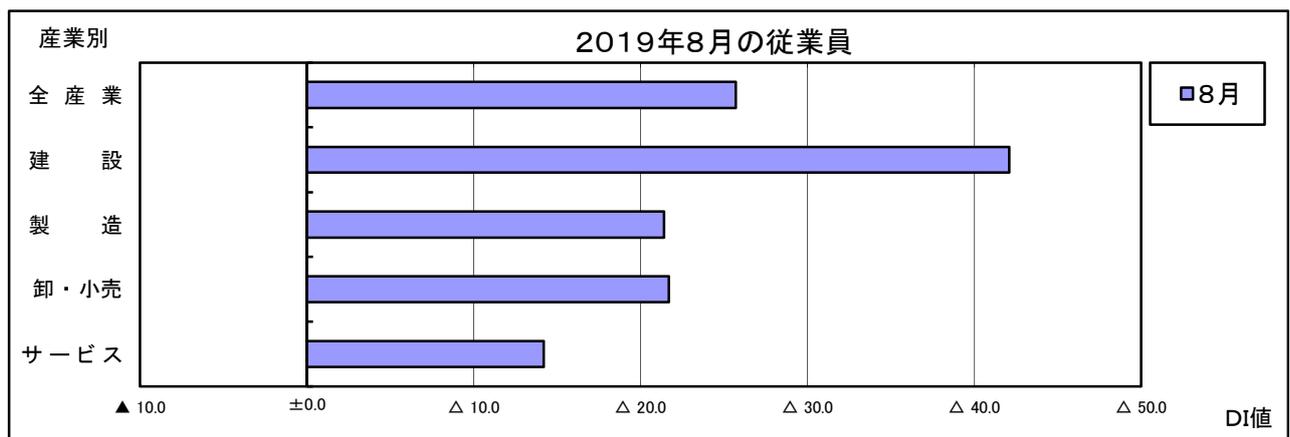
【2019年8月の従業員についての状況】

○ 8月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、△25.7(前月水準△25.3)となり、プラス幅が0.4ポイント拡大した。
 業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、卸小売業△21.7(同△18.1)、製造業△21.4(同△20.0)、サービス業△14.2(同△13.3)である。プラス幅が縮小した業種は、建設業△42.1(同△47.3)である。

○ 向こう3ヶ月(9月から11月)の先行き見通しについては、全産業では、△25.7(前月水準△25.3)となり、プラス幅が0.4ポイント拡大する見通しである。
 業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、卸小売業△26.0(同△13.6)、サービス業△14.2(同△13.3)である。プラス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、建設業△36.8(同△47.3)、製造業△21.4(同△26.6)である。

2019年8月の従業員DI値(前年同月比)の推移

	2019年	4月	5月	6月	7月	8月	先行き見通し
	3月						9月~11月(8月~10月)
全産業	△28.7	△27.1	△23.6	△21.9	△25.3	△25.7	△25.7(△25.3)
建設	△28.5	△31.5	△30.0	△30.0	△47.3	△42.1	△36.8(△47.3)
製造	△31.2	△33.3	△14.2	△28.5	△20.0	△21.4	△21.4(△26.6)
卸・小売	△34.7	△16.0	△25.0	△8.3	△18.1	△21.7	△26.0(△13.6)
サービス	△15.3	△36.3	△21.4	△26.6	△13.3	△14.2	△14.2(△13.3)



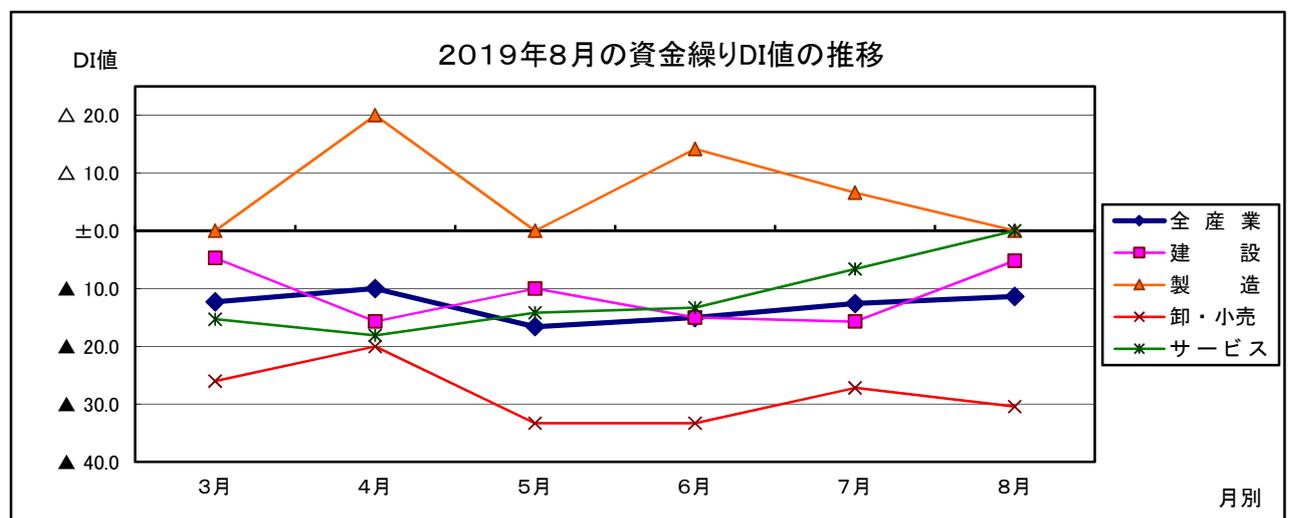
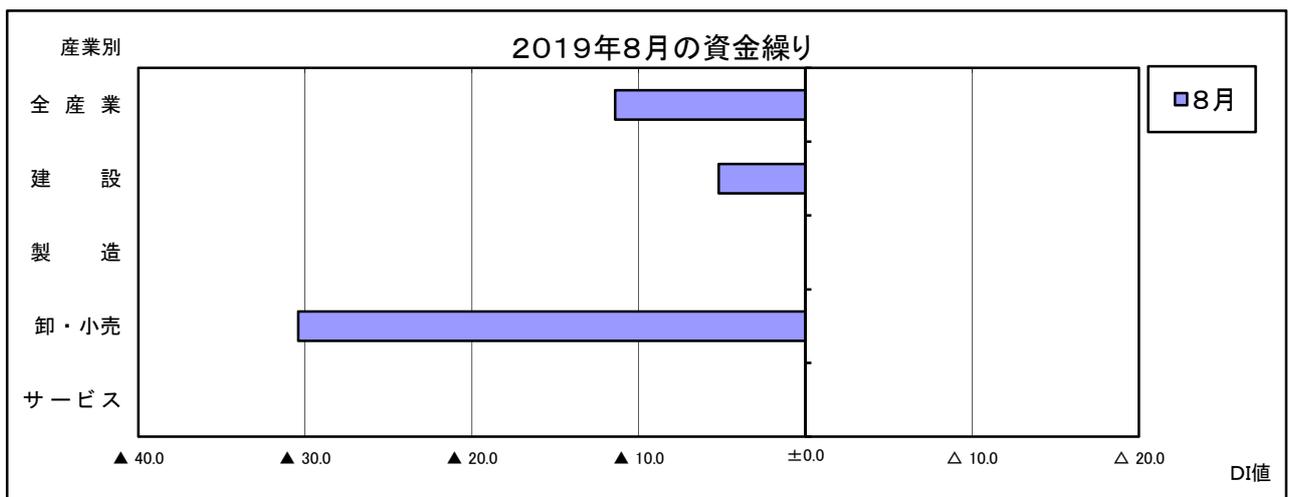
【2019年8月の資金繰りについての状況】

○ 8月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲11.4(前月水準▲12.6)となり、マイナス幅が1.2ポイント縮小した。
 業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、建設業▲5.2(同▲15.7)、サービス業±0.0(同▲6.6)である。プラス幅が縮小した業種は、製造業±0.0(同△6.6)である。マイナス幅が拡大した業種は、卸小売業▲30.4(同▲27.2)である。

○ 向こう3ヶ月(9月から11月)の先行き見通しについては、全産業では、▲8.5(前月水準▲11.2)となり、マイナス幅が2.7ポイント縮小する見通しである。
 業種別では、前月水準と比べて、マイナスからプラスに転じる見通しの業種は、サービス業△14.2(同▲13.3)である。マイナス幅が縮小する見通しの業種は、卸小売業▲26.0(同▲27.2)である。変らない見通しの業種は、建設業±0.0(同±0.0)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、製造業▲14.2(同±0.0)である。

2019年8月の資金繰りDI値(前年同月比)の推移

	2019年 3月	4月	5月	6月	7月	8月	先行き見通し 9月~11月(8月~10月)
全産業	▲12.3	▲10.0	▲16.6	▲15.0	▲12.6	▲11.4	▲8.5(▲11.2)
建設	▲4.7	▲15.7	▲10.0	▲15.0	▲15.7	▲5.2	±0.0(±0.0)
製造	±0.0	△20.0	±0.0	△14.2	△6.6	±0.0	▲14.2(±0.0)
卸・小売	▲26.0	▲20.0	▲33.3	▲33.3	▲27.2	▲30.4	▲26.0(▲27.2)
サービス	▲15.3	▲18.1	▲14.2	▲13.3	▲6.6	±0.0	△14.2(▲13.3)



【2019年8月の調査結果のポイント】

《全産業況DIは悪化。先行きは不透明感強く、慎重な見方が続く》

8月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲28.5(前月水準▲23.9)となり、マイナス幅が4.6ポイント拡大した。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、サービス業▲7.1(同▲13.3)である。変わらない業種は、建設業▲10.5(同▲10.5)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、製造業▲42.8(同▲20.0)、卸小売業▲47.8(同▲45.4)である。

【建設業】からは、「比較的堅調に推移」(一般土木建築工事業)、「休みが多かったので売上減少。9月からの個人消費に期待」(畳工事請負・畳製造販売業)などのコメントが寄せられた。

【製造業】からは、「急速に進むデジタル化による影響は大きい。零細企業の資金繰りは益々厳しくなり、存在意義も危ぶまれる」(印刷業)、「得意先が日韓問題や米中問題で見通しが悪く、在庫調整をしている」(化学工業)、「8月は稼働日が少なく、昨年の景気情報と差異がある。全般的に停滞と不透明」(金属素形材製品製造業)、「働き方改革により中小企業は少しずつ圧迫されると思う」(印刷業)などのコメントが寄せられた。

【卸小売業】からは、「ここにきて高額商品メーカーの倒産、廃業、縮小が多くあった。デパート等でも海外ブランド以外の高級品は売れず、ファストファッション化が進んでいる」(婦人・子供服小売業)、「中元商戦は、弊社他店舗で前年割れが多い中前年実績を確保。中元ギフト購入をきっかけに松戸伊勢丹閉店の反動効果が高まったのか、中元期の松戸在住者の買上高は前年比+4%。店全体が前年を下回る中でも伸長した」(百貨店)、「7月不振だった衣料品がようやく回復した」(大型小売店)などのコメントが寄せられた。

【サービス業】からは、「現在、設備投資予定はないが、借入金の返済が近々あるのでキャッシュフローを厚くしたい」(不動産賃貸・管理業)、「毎度の事だが、人手不足は深刻」(ソフトウェア業)、「高齢者の資産売却や不動産相続による売却相談が増加。また、賃貸住宅からマイホーム取得を希望する若い方の需要も根強い。賃貸の動きは弱い」(不動産管理業)などのコメントが寄せられた。

◎消費増税前の駆け込み需要

「消費税の駆け込み需要とまではいかないが、大きな地震が来る前に耐震補強を考えている人がそれなりにいる」(一般土木建築工事業)、「消費増税に伴い、9月納品の予約注文が昨年より上回っている」(食料・飲料卸売業)、「増税前の駆け込み需要があまり感じられない」(各種商品小売業)、「増税による駆け込み需要がないまま買い控えになりそう」(各種商品小売業)、「現段階では増税を控えた活発な消費が見られない」(百貨店)、「消費税引き上げに対しての、まとめ買いの動きはまだなし。軽減税率を理解できてない声が聞こえる」(大型小売店)、「10月からの消費増税の影響が心配」(日本料理)、「消費増税後の株価に要注意」(投資顧問)との声が寄せられた。

◎天候の影響

「例年に比べ梅雨が長く低気温の時期が長かった為、急激な暑さが来ても夏期需要が少ない。タイミングも遅れているので生産、出荷、在庫がうまくみ合わない。この暑さがいつまで続くかが今期の夏の受注に大きく影響しそう」(自動車付属品製造業)、「厳しい暑さで売上が前年比割れ。売上も厳しい結果に」(洋菓子店)、「8月は全世界で異常気候。日本も異常気候のもたらす災害による経済異常など、経済活動の停滞がみられる」(投資顧問)との声が寄せられた。

	全産業	建設	製造	卸・小売	サービス
3月	▲17.8	▲14.2	▲12.5	▲30.4	▲7.6
4月	▲18.5	▲26.3	△6.6	▲32.0	▲9.0
5月	▲22.2	▲10.0	▲14.2	▲45.8	▲7.1
6月	▲21.9	▲25.0	▲7.1	▲37.5	▲6.6
7月	▲23.9	▲10.5	▲20.0	▲45.4	▲13.3
8月	▲28.5	▲10.5	▲42.8	▲47.8	▲7.1
見通し	▲22.8	▲5.2	▲21.4	▲43.4	▲14.2

見通しは今月の水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

【DI値集計表】

	売上高(受注・出荷)		採算		仕入単価		従業員	
	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 21.4	▲ 17.1	▲ 30.0	▲ 24.2	▲ 25.7	▲ 20.0	△ 25.7	△ 25.7
建設	±0.0	±0.0	▲ 10.5	▲ 5.2	▲ 21.0	▲ 21.0	△ 42.1	△ 36.8
製造	▲ 50.0	▲ 21.4	▲ 35.7	▲ 28.5	▲ 21.4	▲ 7.1	△ 21.4	△ 21.4
卸・小売	▲ 34.7	▲ 34.7	▲ 43.4	▲ 43.4	▲ 30.4	▲ 30.4	△ 21.7	△ 26.0
サービス	±0.0	▲ 7.1	▲ 28.5	▲ 14.2	▲ 28.5	▲ 14.2	△ 14.2	△ 14.2

	業況		資金繰り	
	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 28.5	▲ 22.8	▲ 11.4	▲ 8.5
建設	▲ 10.5	▲ 5.2	▲ 5.2	±0.0
製造	▲ 42.8	▲ 21.4	±0.0	▲ 14.2
卸・小売	▲ 47.8	▲ 43.4	▲ 30.4	▲ 26.0
サービス	▲ 7.1	▲ 14.2	±0.0	△ 14.2

【2019年8月業種別業界内トピックス】

業種別	概況	トピック	業種
建設業	比較的堅調に推移しているように感じる。消費税の駆け込み需要とまではいかないが、大きな地震が来る前に耐震補強を考えている人がそれなりにいる。	消費増税	一般土木建築工事業
	休みが多かったので売上減少。9月からの個人消費に期待。	売上減少	量店製造小売業
製造業	例年に比べ梅雨が長く低気温の時期が長かった為、急激な暑さが来ても夏期需要が少ない。タイミングも遅れているので生産、出荷、在庫がうまくかみ合わない。この暑さがいつまで続くかが今期の夏の受注に大きく影響しそう。	天候の影響	自動車付属品製造業
	急速に進むデジタル化による影響は大きい。零細企業の資金繰りは益々厳しくなり、存在意義も危ぶまれる。	IT化の影響	印刷業
	得意先が日韓問題や米中問題で見通しが悪く在庫調整をしている。	国際情勢の影響	化学工業
	8月は稼働日が少ない為、景気情報とは差異があります。全般的に停滞と不透明。	景気停滞 先行き不透明	金属素材材製品製造業
	働き方改革により中小企業は少しずつ圧迫されると思う。	働き方改革	印刷業
卸小売業	額商品メーカーの倒産、廃業、縮小が多くあった。デパート等でも海外ブランド以外の高級品は売れず、ファストファッション化が進んでいる。	消費者のファストファッション化	婦人・子供服小売業
	現段階では増税を控えた活発な消費は見られない。中元商戦は弊社他店舗にて前年割れが多い中、前年実績を確保。中元ギフト購入をきっかけに松戸伊勢丹閉店の反動効果が高まったのか、中元期の松戸在住者の買上高は前年比+4%。店全体が前年を下回る中でも伸長した。	消費増税 お中元商戦	百貨店
	消費税前の駆け込み需要があまり感じられない。	消費増税	各種商品小売業
	増税による駆け込み需要がないまま買い控えになりそう。	消費増税	各種商品小売業
	厳しい暑さで売上が前年比割れ。売上も厳しい結果に。	天候の影響 売上減少	洋菓子店
	消費増税に伴い、9月納品の予約注文が昨年より上回っている。	消費増税	食料・飲料卸売業
	7月不振だった衣料品がようやく回復した。消費税引き上げに対してのまとめ買いの動きはまだなし。軽減税率を理解できていない声が聞こえる。	売上回復(衣料品) 消費増税	大型小売店
サービス業	8月は例年と変わらず。10月からの消費税増税の影響が心配。	消費増税	日本料理
	8月は全世界の異常気候、日本も異常気候のもたらす災害の経済異変など、経済活動の停滞がみられる。消費税増税後の株価に要注意。	天候の影響 消費増税	投資顧問
	現在、設備投資予定はないが借入金の返済が近々あるのでキャッシュフローを厚くしたい。	企業財務の健全化	不動産賃貸・管理業
	毎度の事だが、人手不足は深刻。	人手不足	ソフトウェア業
	高齢者の資産売却や不動産相続による売却相談が増加。また賃貸住宅からマイホーム取得を希望している若い方の需要も根強い。賃貸の動きは弱い。消費税増税後が不安。	高齢者からの売却相談増加 消費増税	不動産管理業

◎消費増税前の駆け込み需要

「消費税の駆け込み需要とまではいかないが、大きな地震が来る前に耐震補強を考えている人がそれなりにいる」(一般土木建築工事業)、「消費増税に伴い、9月納品の予約注文が昨年より上回っている」(食料・飲料卸売業)、「増税前の駆け込み需要があまり感じられない」(各種商品小売業)、「増税による駆け込み需要がないまま買い控えになりそう」(各種商品小売業)、「現段階では増税を控えた活発な消費が見られない」(百貨店)、「消費税引き上げに対しての、まとめ買いの動きはまだなし。軽減税率を理解できてない声が聞こえる」(大型小売店)、「10月からの消費税増税の影響が心配」(日本料理)、「消費増税後の株価に要注意」(投資顧問)との声が寄せられた。

◎天候の影響

「例年に比べ梅雨が長く低気温の時期が長かった為、急激な暑さが来ても夏期需要が少ない。タイミングも遅れているので生産、出荷、在庫がうまくかみ合わない。この暑さがいつまで続くかが今期の夏の受注に大きく影響しそう」(自動車付属品製造業)、「厳しい暑さで売上が前年比割れ。売上也厳しい結果に」(洋菓子店)、「8月は全世界で異常気候。日本も異常気候のもたらす災害による経済異変など、経済活動の停滞がみられる」(投資顧問)との声が寄せられた。

2019年8月CCI-LOBOとの比較

- 【業況DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲28.5に対し、「CCI-LOBO」が▲21.0で柏の方がマイナス幅が7.5ポイント大きい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、サービス業である。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業、製造業、卸小売業であり、製造業、卸小売業は10ポイント以上悪い。
- 【売上DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲21.4に対し、「CCI-LOBO」が▲13.2で柏の方がマイナス幅が8.2ポイント大きい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、建設業、サービス業である。「柏の景気」の方が悪い業種は、製造業、卸小売業であり、製造業は10ポイント以上悪い。
- 【採算DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲30.0に対し、「CCI-LOBO」が▲18.9で柏の方がマイナス幅が11.1ポイント大きい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、建設業である。「柏の景気」の方が悪い業種は、製造業、卸小売業、サービス業であり、10ポイント以上悪い。
- 【仕入単価DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲25.7に対し、「CCI-LOBO」が▲35.7で柏の方がマイナス幅が10ポイント小さい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、建設業、製造業、サービス業であり、建設業、製造業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、卸小売業である。
- 【従業員DI】 全産業合計では、「柏の景気」が△25.7に対し、「CCI-LOBO」が△23.2で柏の方がプラス幅が2.5ポイント大きい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、建設業、製造業、卸小売業である。「柏の景気」の方が悪い業種は、サービス業であり、10ポイント以上悪い。
- 【資金繰りDI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲11.4に対し、「CCI-LOBO」が▲11.3で柏の方がマイナス幅が0.1ポイント大きい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、製造業、サービス業であり、サービス業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業、卸小売業であり、卸小売業は10ポイント以上悪い。

2019年8月の柏の景気天気図

柏の景気情報と全国CCI-LOBOとの比較

景気天気図					
	特に好調 DI \geq 50	好調 50>DI \geq 25	まあまあ 25>DI \geq 0	不振 0>DI \geq ▲25	極めて不振 ▲25>DI

業況DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 28.5	 ▲ 10.5	 ▲ 42.8	 ▲ 47.8	 ▲ 7.1
CCI-LOBO	 ▲ 21.0	 ▲ 9.5	 ▲ 23.1	 ▲ 31.1	 ▲ 15.9

売上DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 21.4	 ±0.0	 ▲ 50.0	 ▲ 34.7	 ±0.0
CCI-LOBO	 ▲ 13.2	 ▲ 4.6	 ▲ 10.6	 ▲ 26.9	 ▲ 8.6

採算DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 30.0	 ▲ 10.5	 ▲ 35.7	 ▲ 43.4	 ▲ 28.5
CCI-LOBO	 ▲ 18.9	 ▲ 11.8	 ▲ 18.5	 ▲ 29.9	 ▲ 14.5

仕入単価DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 25.7	 ▲ 21.0	 ▲ 21.4	 ▲ 30.4	 ▲ 28.5
CCI-LOBO	 ▲ 35.7	 ▲ 46.4	 ▲ 40.2	 ▲ 30.3	 ▲ 30.3

従業員DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 25.7	 42.1	 21.4	 21.7	 14.2
CCI-LOBO	 23.2	 34.9	 13.3	 19.2	 31.5

資金繰りDI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 11.4	 ▲ 5.2	 ±0.0	 ▲ 30.4	 ±0.0
CCI-LOBO	 ▲ 11.3	 ▲ 3.3	 ▲ 8.8	 ▲ 18.2	 ▲ 12.2

CC I - L O B O

商工会議所早期景気観測(8月速報)

調査期間：2019年8月15日～21日

調査対象：全国の338商工会議所が2,655企業にヒアリング調査を実施

全国の業況

業況DIは、依然として一部に弱さ見られる。先行きは懸念材料多く、慎重な見方が続く

8月の全産業合計の業況DIは、▲21.0と、前月から▲0.8ポイントの悪化。気温の上昇により飲食料

品などの夏物商材の需要が拡大し、小売業や卸売業の業況が改善する一方、急激な猛暑の到来や台風などの天候不順に伴う客足減少により、

飲食・宿泊業を中心にサービス業の業況が悪化した。加えて、一部の地域からは日韓情勢の影響による観光客の減少を指摘する声も聞かれた。

また、深刻な人手不足や原材料費の高止まり、米中貿易摩擦や世界経済の先行き不透明感が製造業を中心に広く業況の押し下げ要因となっており、中小企業の景況感

は、足元で弱い動きが続いている。先行きについては、先行き見通しDIが▲22.7(今月比▲1.7ポイント)と悪化を見込む。個人消費の拡大やインバウンドを含む観光

需要拡大への期待感がうかがえる。一方、人手不足の影響の深刻化や、原材料費の上昇、コスト増加分の価格転嫁の遅れ、貿易摩擦の激化や世界経済の動向、日韓情勢の行方、消費税引上げの影響など不透明感が増す中、中小企業の業況感は慎重な見方が続く。

○各業種から寄せられた特徴的なコメントは以下のとおり。

【建設業】「慢性化している人手不足の解消や働き方改革による残業時間削減への対応のため、ICT建機の導入を進めている。生産性向上に取り組み、さらなる売上増加につなげていきたい」

(一般工事業、「猛暑が続く中、作業効率よりも現場の作業員の安全確保を優先し、水

分補給や休憩の確保などの熱中症対策を行ったため、工期を延長せざるをえなくなり、経費が増大した。また、深刻な人手不足から下請業者がなかなか見つからず、受注できない案件も多い」(管工事業)

【製造業】「一段と激しくなる米中貿易摩擦の影響により、大手企業からの受注が激減した。しばらくは売上高の前年割れは避けられそうもない」(電気計測器製造業)、「猛暑による消費者の購買意欲の減退を懸念していたが、お盆の帰省客を見込んだ受注増があり、売上は改善した。秋の観光シーズンに向けて増産体制を整え、需要の取り込みを図りたい」(食料品製造業)

【卸売業】「猛暑を背景に飲料品を中心に需要が増加し、売上・採算ともに回復した。しかし、日韓関係の悪化により、

飲食店等のインバウンド客の減少が続けば今後の売上悪化は避けられず、影響の長期化を懸念している」(飲食料品卸売業)、「堅調な建設需要を背景に売上は増加しているが、運送コストや人件費・外注費仕入価格上昇分を販売価格に

転嫁できず、採算確保に苦戦している」(建設資材卸売業)

【小売業】「お盆期間中は広範囲からの客足獲得に成功したほか、消費税引上げを前に、家具などの高単価商品がよく売れ、売上が増加した」(百貨店)、「気温の上昇によりエアコンの注文が集中し、お盆期間中も設置工事に追われた。消費税引上げ前の駆け込み需要を狙い、量販店など資金力があるところに商品をおさえられてしまいう可能性があり、商品の品薄や品切れの発生を懸念している」(電化製品等小売業)

【サービス業】「日韓情勢を背景に韓国からのツアー客が激減しているほか、予約のキャンセルも相次ぎ、売上が大幅に落ち込んだ。台湾など他の国からの客足は堅調だが、来月からは近隣空港の韓国の運航休止や縮小が決まっており、先行きに対する不安感が拭えない」(宿泊業)、「急激な猛暑で、昼も夜も客足が鈍い。地域をあげて開催する大規模なお祭りも今年は平日開催だったため、期待したほど売上は伸びなかった」(飲食業)

全国・産業別業況DIの推移

「見通し」は当月水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

	全産業	建設	製造	卸売	小売	サービス
3月	▲16.9	▲5.8	▲16.6	▲22.4	▲29.5	▲11.7
4月	▲16.7	▲3.9	▲18.3	▲20.5	▲33.9	▲7.9
5月	▲17.1	▲7.7	▲22.3	▲19.8	▲29.4	▲6.7
6月	▲18.3	▲9.5	▲20.0	▲25.5	▲28.3	▲10.9
7月	▲20.2	▲5.6	▲20.5	▲27.4	▲33.9	▲14.5
8月	▲21.0	▲9.5	▲23.1	▲25.2	▲31.1	▲15.9
見通し	▲22.7	▲12.2	▲23.5	▲23.0	▲34.8	▲18.5

柏の景気情報

(8月の調査結果のポイント)

調査期間：2019年8月27日～9月6日

調査対象：柏市内156事業所及び組合にヒアリング、回答数70件

柏の景気情報・産業別業況D I

	全産業	建設	製造	卸・小売	サービス
3月	▲17.8	▲14.2	▲12.5	▲30.4	▲7.6
4月	▲18.5	▲26.3	△6.6	▲32.0	▲9.0
5月	▲22.2	▲10.0	▲14.2	▲45.8	▲7.1
6月	▲21.9	▲25.0	▲7.1	▲37.5	▲6.6
7月	▲23.9	▲10.5	▲20.0	▲45.4	▲13.3
8月	▲28.5	▲10.5	▲42.8	▲47.8	▲7.1
見通し	▲22.8	▲5.2	▲21.4	▲43.4	▲14.2

「見通し」は今月の水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しD I

柏市の業況

全産業業況D Iは悪化。先行きは改善を見込むも、不透明感拭えず

8月の全産業合計のD I値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲28.5(前月水準▲23.9)となり、マイナス幅が4.6ポイント拡大した。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、サービス業▲7.1(同▲13.3)である。変らない業種は、建設業▲10.5(同▲10.5)である。マイナス幅が

拡大した業種は、幅の大きい順に、製造業▲42.8(同▲20.0)、卸小売業▲47.8(同▲45.4)である。

【建設業】からは、「比較的堅調に推移」(一般土木建築工事業)、「休みが多かったので売上減少。9月から個人消費に期待」(畳工事請負・畳製造販売業などのコメント)が寄せられた。

【製造業】からは、「急速に進むデジタル化による影響は大きい。零細企業の資金繰りは益々厳しくなり、存在意義も危ぶまれる」(印刷業)、「得意先が日韓問題や米中問題で見通しが悪く、在庫調整をしている」(化学工業)、「8月は稼働日が少なく、昨年の景気情報と差異がある。全般的に停滞と不透明」(金属素材製品製造業)、「働き方改革により中小企業は少しずつ圧迫されると思う」(印刷業)などのコメントが寄せられた。

【卸小売業】からは、「ここに来て高額商品メーカーの倒産、廃業、縮小が多くある。デパート等でも海外ブランド以外の高級品は売れず、ファストファッション化が進んでいる」(婦人・子供服小売業)、「中元商戦は、弊社他店舗で前年割れが多い中前年実績を確保。中元ギフト購入をきっかけに松戸伊勢丹閉店の反動効果が高まったのか、中元期の松戸在住者の買上高は前年比+4%。店全体が前年を下回る中でも伸長した」(百貨店)、「7月不振だった衣料品がようやく回復した」(大型小売店)などのコメントが寄せられた。

【サービス業】からは、「現在、設備投資予定はないが、借入金の返済が近々あるのでキャッシュフローを厚くしたい」(不動産賃貸・管理業)、「毎度の事だが、人手不足は深刻」(ソフトウェア業)、「高齢者の資産売却や不動産相続による売却相談が増加。また、賃貸住宅からマイホーム取得を希望する若い方の需要も根強い。賃貸の動きは弱い」(不動産管理業)などのコメントが寄せられた。

8月の景気キーワード

◎消費増税前の駆け込み需要
「消費税の駆け込み需要とまではいかないが、大きな地震が来る前に耐震補強を考えている人がそれなりにいる」(一般土木建築工事業)、「消費増税に伴い、9月納品の予約注文が昨年より上回っている」(食料・飲料卸売業)、「増税前の駆け込み需要があり感じられない」(各種商品小売業)、「増税による駆け込み需要がないまま買い控えになりそう」(各種商品小売業)、「現段階では増税を控えた活発な消費が見られない」(百貨店)、「消費税引き上げに対しての、まとめ買いの動きはまだなし。軽減税率を理解できてない声が聞こえる」(大型小売店)、「10月からの消費税増税の影響が心配」(日本料理)、「消費税増税後の株価に要注意」(投資顧問)との声が寄せられた。

◎天候の影響

「例年に比べ梅雨が長く低気温の時期が長かった為、急激な暑さが来ても夏期需要が少ない。タイミンも遅れているので生産、出荷、在庫がうまくかみ合わない。この暑さがいつまで続くかが今期の夏の受注に大きく影響しそう」(自動車付属品製造業)、「厳しい暑さで売上が前年比割れ。売上も厳しい結果に」(洋菓子店)、「8月は全世界で異常気候。日本も異常気候のもとならず災害による経済異変など、経済活動の停滞がみられる」(投資顧問)との声が寄せられた。

全国の商工会議所早期景気観測調査(CCI-LOBO)との比較

全産業合計では、「柏の景気」が▲28.5に対し、「CCI-LOBO」が▲21.0で柏の方がマイナス幅が7.5ポイント大きい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、サービス業である。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業、製造業、卸小売業であり、製造業、卸小売業は10ポイント以上悪い。